

社団法人 豊中市シルバー人材センター機関誌

# ふれあい

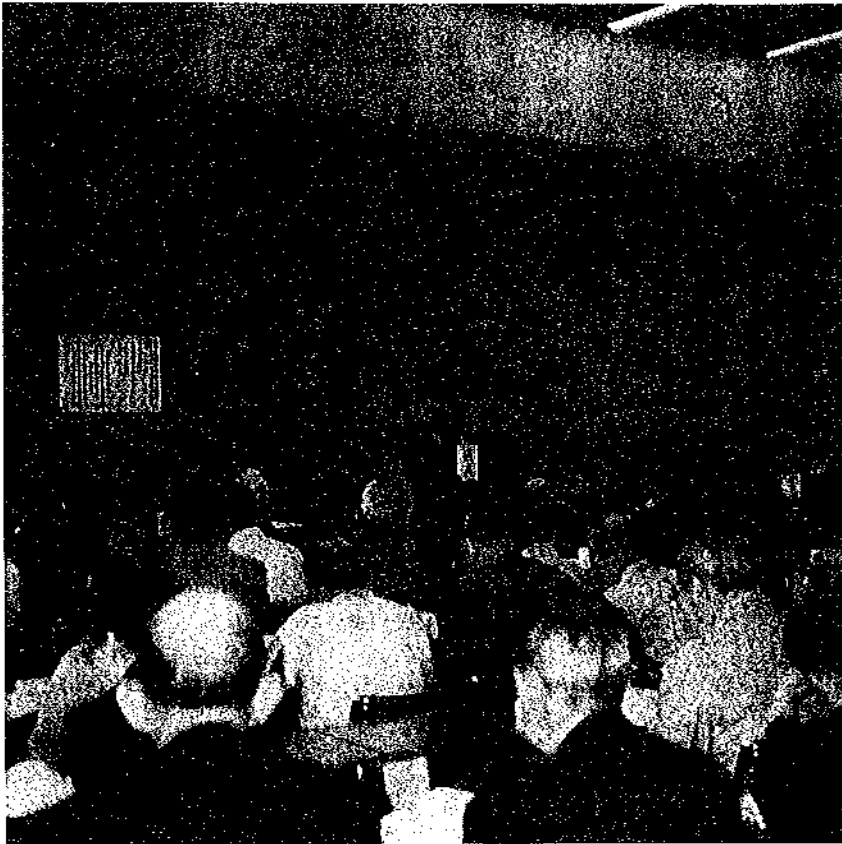
第9号

豊中市北桜塚2丁目2番1号

編集・発行

社団法人 豊中市シルバー人材センター

TEL (06)856-1777(代)



平成元年度通常総会  
盛況裡に終わる

センターの一層の発展めざして！

平成元年度通常総会は、五月二十三日午後一時三十分から、豊中市民会館で開催され、五百三十人（うち委任状四百十九人）の会員が出席、議案第一号から第五号まで原案どおり可決承認され、午後二時四十五分閉会しました。

総会は、まず酒井千秋理事長の挨拶に始まり、続いて名誉理事長である下村輝雄豊中市長の祝辞、次に来賓紹介、祝電披露が行われたあと、議長に正会員の野村貞人氏が選任され議事に入りました。

議事は、総会成立宣言、議事録署名人選任のあと、昭和六十三年度事業報告及び決算報告、平成元年度事業計画案及び収支予算案について慎重審議が行われ、全員異議なく原案どおり可決承認され、役員を選任（補充）についても原案どおり、山田農次氏（豊中市民生部長）が理事に選任され、全部の議案審議を終了しました。

### 酒井理事長あいさつ

(要旨)



平成元年度通常総会の開催に際し、下村市長を始めご来賓各位には、ご多忙にもかかわらずご臨席を賜り厚くお礼を申し上げます。また、会員各位におかれましても多数ご出席をいただきありがとうございます。

我が国では、急速に高齢化が進み、約三十年後には六十五歳以上の方が、人口の約二十四％を占めるといわれています。こうした状況の中で、働く意欲のある高齢者のニーズに応え、いつでも働きたいことができるようなシステムづくりが必要であり、高齢者が健康で生きがいのある生活を送れるような

地域社会をつくること、現在の重要な課題であります。その意味からもシルバー人材センターに対する社会的役割と期待は益々大きくなってきております。

当センターは、昭和五十六年に発足以来満八年、関係機関のご指導と協力を仰ぎながら、会員自らの創意と工夫により、事業の充実、推進に努めてきました。

おかげさまで、昭和六十三年度においては、会員数七百二十五人、契約金額二億二千万円と当初の目標を大幅に上回ると共に、地域班活動も班役員のご努力により定着しつつあり、福利厚生面についても一定の前進をみました。これも会員各位のご努力と豊中市をはじめとする関係機関のご支援の賜物であります。

しかしながら、①受注に対応する会員数の不足 ②会員の希望職種と受注職種の不均衡 ③未就業

会員への対応 ④発注者側の条件調整等、幾多の課題を抱えておりますが、今後一層センターと会員の緊密な連携を深めながら、諸問題の解消と福利厚生向上に努力し、地域に密着したセンターの運営に努める所存であります。

### 来賓祝辞

(要旨)

豊中市長

下村輝雄氏



平成元年度通常総会の開催おめでとうございます。貴センターは

昭和五十六年に発足以来、極めて順調に伸展され、昭和六十三年度においては、会員数七百数十名、事業実績二億二千万円と大きく発展されました。理事長さんを始め

役員各位、会員の皆様方のご尽力の賜物と深く敬意を表しますと共に、名誉理事長として、心から感謝を申し上げます。

社会の高齢化が急速に進む中で、貴重な高齢期を健康で生きがいのある生活を送れるような地域社会を形成することが重要な課題となっております。この意味からも、現在、市民のご協力を得て進めております「ふるさと都市」の建設、四十一万市民が豊中に永住し、誇りに思う潤いと活力ある「緑豊かな、生活文化創造都市」の実現にあって、貴センターに大きな期待を抱いております。

高齢者市民が豊かな経験と能力を生かし、社会参加をされることは、潤いと活力のある街づくりに欠くことのできないものであり、豊中市シルバー人材センターの一層の発展のため、私も、できる限りの努力をする所存であります。

事業実績の推移

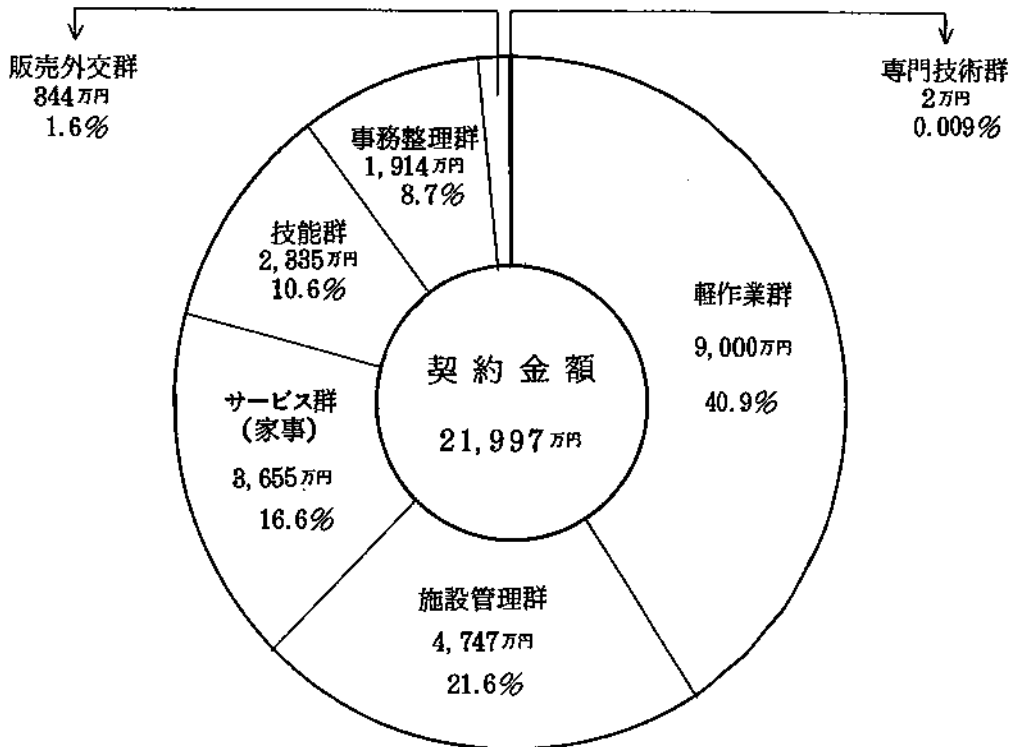
| 区分 \ 年度 | 56      | 57      | 58       | 59       | 60       | 61       | 62       | 63       |
|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 会員数     | 331人    | 444人    | 510人     | 600人     | 662人     | 684人     | 703人     | 725人     |
| 契約金額    | 2,194万円 | 6,579万円 | 10,994万円 | 12,884万円 | 12,761万円 | 15,634万円 | 18,375万円 | 21,997万円 |

会員の状況(昭和63年度)

| 区分       | 60歳未満       |    | 60~64歳        |    | 65~69歳        |    | 70歳以上         |    | 合計           |     | 比率 % |
|----------|-------------|----|---------------|----|---------------|----|---------------|----|--------------|-----|------|
|          | 男           | 女  | 男             | 女  | 男             | 女  | 男             | 女  | 男            | 女   |      |
| 1. 専門技術群 | 1人          | 0人 | 7人            | 0人 | 4人            | 0人 | 4人            | 0人 | 16人          | 0人  | 2.2  |
| 2. 事務整理群 | 1           | 4  | 35            | 20 | 33            | 17 | 35            | 4  | 104          | 45  | 20.6 |
| 3. 施設管理群 | 4           | 0  | 25            | 0  | 35            | 0  | 23            | 0  | 87           | 0   | 12.0 |
| 4. 販売外交群 | 0           | 0  | 2             | 1  | 3             | 0  | 7             | 0  | 12           | 1   | 1.8  |
| 5. 技能群   | 0           | 0  | 15            | 5  | 9             | 4  | 14            | 5  | 38           | 14  | 7.2  |
| 6. 軽作業群  | 8           | 2  | 46            | 13 | 70            | 16 | 81            | 29 | 205          | 60  | 36.5 |
| 7. サービス群 | 0           | 12 | 0             | 48 | 0             | 42 | 0             | 41 | 0            | 143 | 19.7 |
| 8. その他   | 0           | 0  | 0             | 0  | 0             | 0  | 0             | 0  | 0            | 0   | 0    |
| 合計       | 14          | 18 | 130           | 87 | 154           | 79 | 164           | 79 | 462          | 263 | 100  |
|          | 4.4%<br>32人 |    | 29.9%<br>217人 |    | 32.2%<br>233人 |    | 33.5%<br>243人 |    | 100%<br>725人 |     |      |

平均年齢 67.5歳 男 67.9歳 女 66.8歳

職群別実績(昭和63年度)



# 『あなただけの 貴重な人生を楽しく！』

## カギは

### 「自己意識の改革」

大阪府が行った世論調査による

と、定年退職後の生きがいの第一位は、「趣味や仕事を持つこと」、一方、不安の第一位は、「健康のこと」となっており、多くの人が、定年後も健康で趣味や仕事をもちたいと願っていることがわかります。

こうしたことから、比較的気軽に仕事ができるシルバー人材センターが注目され、入会する方が増えていきます。

ところが、自分の希望と異なる仕事を紹介されると、どうしても会社時代の栄光が障害となっていて、就業に結びつかないケースが多いようです。

その結果、「毎日が日曜日」となって、生活に「張り」がなくなり、健康の維持にも支障がでるということにもなりかねません。

そこで今回は、実際に会社時代とは異なる仕事を、楽しんでしておられる会員さんの声を掲載させていただきます。

あなたも隠居的生活からとび出して、生きがいと健康のため、思いついて仕事をしてみませんか。

そのカギは、あなた自身が意識を切替え、希望職種の幅を広げることにあると思います。



意識の転換



## 職種変更で気分一新を



十班  
北林善堯

定年退職後の五年間の再契約期間も無事終了、雇用保険受領時を利用して公共職業安定所を調査して、技能のない者は仕事が少なく、特に事務系はほとんどないことを確認し、

○定年までの職業にこだわらないこと、を前提にシルバー人材センターを訪れ、担当係員の親切な指導と紹介により、頭を使う仕事より、すぐにやれる身体を動かす仕事と思いい、現在一日四時間清掃に従事してまる五年、清掃は全身運動のため老人特有の肩や腰のコリや痛みも全く知らず至極元気で食事が美味しく、夜はぐっすり眠り

毎日を快適に過ごしております。皆様も、一度未経験の新職場に挑戦してみませんか、楽しいですよ。

清掃を 前職忘れ さわやかに

## 仕事と私



藤田政子

今日は何のおかずにしましょ綾ちゃん、幸ちゃん何を食べたいですか、毎日こんな言葉の繰返しです。早いもので、シルバーセンターにご厄介になって一年余り、私は長い会社勤めで家事のことなどまったくせずに過ごしました。定年になって暇な毎日、いろいろと考えることばかり、一番こわいのは老人の痴呆症で、それこそ大変と、何か私の出来る仕事をとってセン

ターに行き、現在の仕事を紹介して頂きました。

掃除、洗濯、日常の生活です。

世のお母様達皆同じことをして日々を送っておられるのですが、これがまた大変な労働で次から次へと終わりのないことですが、私は毎日楽しく働いています。

ふと振り返ってみると、自分の子供の面倒は、父が健在でしたから全部お願いして勤めに出ました。

現在二人の女の子の面倒をみています。私の子供の頃、また自分の娘二人と全く同じで親しみも深く、身近に孫が増えて笑ったり怒ったりの毎日です。

ほんとうにどんな仕事でも自信を持って、毎日楽しく気楽に送って行きたく思います。

もしセンターを知らずにいたら今どうして過ごしていたでしょう。感謝しています。

まだまだがんばります。いつまでも元気で……。

### 除草班員より



二班  
黒川道雄

除草班の一員として皆様方の仲間入りをさせて頂き、私の就労も四年目に入りました。

当初、私は草刈鎌は勿論のこと、竹箒、サラエ(熊手)すら手にしたこともない全くの素人でした。

この当時六十三歳のニューフェイス?を就労メンバーに加えられた諸先輩は恐らく当惑されたと思いますが、嫌な顔一つ見せることもなく、快く仲間として受け入れて頂くと同時に、文字通り「いろは」の「い」の字から除草の要領につき教えて頂きました。

私も、豊中市民の皆様の信頼を得、豊中市シルバーの信用を支え

てこられた諸先輩の言うことには絶対に間違いはないと信じて、一日も早く足手まといから脱却しなければ、と本当に懸命でした。

現在では何とかやれるようになったのではないかと思います。初心を忘れず、いつまでも自惚れることを自戒していくつもりです。

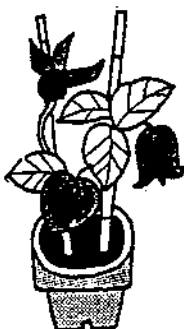
私共の除草作業についてですが、春、秋の気候のよい時、太陽を浴びながら大地を友として汗を流すのは全く爽快で、しみじみ「生きる」ことを実感します。

一方、厳寒の一、二月吹雪の舞う時、または猛暑の八月、日陰一つない炎天下の野外作業には「生きる」ことの厳しさを覚えずにはいられません。

しかし共同作業である限り、班員一同の人間関係がよく、信頼関係が保持されるよう互いに努力しながら、人生を語り合えば、喜びは倍加され、つらさは半減するものと思います。

会員の皆様方は、現役時代には事務関係、技術関係を問わず、各分野ではそれぞれのエキスパートであった方がほとんどだと思います。しかし、近年のME革命(マイクロ エレクトロニクス)のもとでも、果たして六十歳前後、あるいはそれ以上の高齢者がそのエキスパートとしていられるかどうか、むしろついて行くことさえ不可能と思われれます。

私も退職して以来、現職時代のことは過去のこととして断ち切り、シルバーセンターの除草班の一員として、気力・体力が充実している限り、班員の皆さんと扶け合いながら就労していきたいと思えます。事務局の皆様方にも何かと手を煩わすことと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。



# 会員のひろば

## 美しく老いる!!



三班  
宮崎 英三郎

第三の人生即ち熟年期を迎えた私達の生きがいについて、皆さんはどのようにお考えになって毎日を送っておられますか。

私が恩師に学んだ生きがい・美しく老いるために、平常心がけ実践に努めていることがらを述べてみたいと思います。

- 一、仕事Ⅱ(再就職) 日常きまった仕事をもち。
- 二、教養Ⅱ常に新しい知識を涵養する。
- 三、余暇Ⅱ(レクリエーション) ゆとり、遊びのこころをとり入れる。
- 四、奉仕Ⅱ報酬を求めないボランティア精神に徹する。
- 五、信仰Ⅱ心のよりどころをもつ。
- 六、後輩の養成Ⅱ常に身をもって率先

垂範する。

然し、以上の条件を充たすためには健康な体力の維持が必要で、通常(PHYSICAL POWER)といわれていますが、身体(からだ)と精神(こころ)が一元であることは、言を俟たないところで、両者が健全でなければ、いかに優れた頭脳・技術をもっていても、自らがそれを実行できなければ無に等しいといえましょう。即ち身体にかかわる総ての力を総合発揮できる能力が必要となります。

力とは視力・肩腕力・握力・心肺活力・跳走力プラス精力など一般に三〇といわれている

- 一、調整 コントロール (CONTROL O L)
  - 二、集中 コンセントレーション (CONCENTRATION)
  - 三、自信 コンフィデント (CONFIDENT)
- を、ときとところによって適正に配分し、発揮できることが肝要と思います。要するに日常生活において、いかなる事態、課題に遭遇しても、立派にやりこなせるよう優れた健康状態を維持していくことが、美しく老いるための条件ではないかと思っております。

会員諸賢のご健康と一層のご活躍を切に祈念して已みません。

## 旅は道づれ



十八班  
山口 正雄

「どこまで行かれるんですか。」

「いえ行くのんと違いまんねん、大阪へ帰りまんねん。」と、口を突いて出た何気ない私の返事、「大阪弁丸出し」丁度、東京発博多行き新幹線「ひかり」の車中であります。私は福島県郡山からの帰途で、上野駅から乗り継いで、ホット一息ついたときでした。「ウワァーなつかしい大阪弁ですな、久しぶりで耳にしましたよ。」隣りの座席で笑顔の紳士、「私は関東・松戸市に住みついて、もう四十数年、でも生まれ育ったのは大阪の心斎橋なんですよ、すっかり変わったでしょうね。」  
そんな会話がきっかけとなって話はずみ、話題は戦後の大阪の街並、建物の移り変わり、食べ物の話、大阪人気質等々、今は昔、古き良き時代のなつ

かしい浪速の想い出話に花が咲いて、正に「アレック」という間の三時間。列車は新大阪に到着、そして別れを告げた相手の人は岡山まで所要の旅へ。

ところで私達日本人は、えてして車中で隣り合っても、言葉はもとより口もきかない。まるで敵同士のように振舞って押し黙っている人が多い。その点、外国では、みな開放的で親しみやすく、打ち解けた旅ができて一段と楽しくさせてくれる。

更に目を車外に移すと、今や内需拡大とやらで日本の長閑な自然の風景、田舎にまで矢鱈とマンションが建ち並び、人の心がお金で振りまわされている感じ。そんな話題を交えて語り合ってきた相手の人は、かつて文部省の嘱託として、「海外の子供と教育の視察」で各国を歴訪されてきた経験者でありました。その後お便りにも接し、正に「旅は道づれ」、大阪弁が取り持つご縁となりました。



### 家事の能率も向上



一班  
野 嶋 き み

ああ、やっと最後の一枚を書き上げた「ヤッター」// 疲れたな// うーんと伸びをする。学生時代、宿題が全部できてほっとしたあの気持ちだ。

シルバー人材センターにお世話になり、宛名書きの仕事を始めてもう四年、宛名書きの仕事を始めてもう四年、正確に美しく、期日に遅れぬようにと頑張っているが、まだまだ未熟だ。

筆耕をしている間は気分が引きしまり、家事もいつもより能率よく片付く。一生懸命書いているうちに手がだるく、もう嫌だなど思うときは、「今暫くの辛棒だ。早くこれを仕上げ、好きなししゅうやごてんまりを作ろう、テレビも見よう」と楽しいことを頭に浮かべると、また元気が出る。

幸い健康にも恵まれ、週一回若い人に交って卓球教室に通うお蔭か肩こりも知らぬ。仕事に夢中になって、つい夕食の仕度が遅れ、主人には申し訳け

なく思う。今度頂く配分金でたばこでも買ってあげよう、可愛い孫にはお菓子がいいかな、これも楽しみの一つだ。センターの皆様にはいつも親切にしてください感謝している。これからもよろしくお願いします。

(随筆)

### 黒潮が運ぶ花



中 村

(喜寿)

馬酔木 (あしび)

枸 橘 (からたち)

鬼 灯 (ほほづき)

杜 若 (かきつばた)

浜木綿 (はまゆう)

等、むつかしい読み方のものが沢山あるが、文字が中国から渡来した名残りを思わせたり、時にはその命名の呼吸なども判じられて、興味は津々として尽くるところがありません。

百花繚乱の春の花々ももち論良けれど、夏の暑い時季に咲く花にも心が惹かれる。浜木綿もその一つである。歳時記に「紀勢地方・南海の浜地に咲く花、熊野にはとくに多い。曼珠沙華

に似ているが、これは白色、葉はおもとに似て広く大きい、佳香を持つている。はまおもと」とある。万葉集のみ熊野の浦の浜木綿百重なす心は念へど直に逢はぬかも

柿本人磨

この和歌以来、浜木綿の呼び名は変わっていないということである。正しい名の浜おもとより、浜木綿の方を愛する人が多いといわれる。

浜木綿は多年草で、南方からその実が黒潮に乗って漂着し、砂地に育ち始めたといわれる。宮崎県・高知県・和歌山県に群生地を形成した。物の本によると、分布の北限は三浦半島の天神島だとある。明らかに黒潮に運ばれたものと思われる。浜木綿を県花と定めているのは宮崎県と三重県である。浜木綿の花は夜見る方が美しいと思う。灯台の光芒がまわってきたの微光で、あるいは月光のもとで賞でるのもまた格別である。

浜木綿は浜で眺めるもので、市街地の中で見るべきものではない。葉が潮風に傷み破れて、自然に抵抗した姿の中ですくくと立っている眺めがいい。碧海があり砂丘があり、古びた破船の姿がある風景の中がいい。

浜木綿の俳句も多くある。

浜木綿や海女は昼鮎の蓬敷く 群洋  
浜木綿や海女に他郷の小屋傾く 朝蒼  
海女たちの志州訛や浜おもと 蕉陰  
はまゆうは真夜の灯台にほはしむ 青畝

浜おもと島人はただおもとも 素十

浜おもとも海女との取合せが多い。海女たちもまた浜木綿に夏のロマンの想い出を托したことであろう。

### 会員の一人として

M・O生

私は軽作業班の一員として、センターのご輪旋により市内繁華街の清掃作業に従事しております。正月三日を除き、晴雨に拘らず年中無休です。屋外のことですから、寒中、特に雨天の作業は雨合羽着用のこととて難渋致しますし、時には道路端に酔漢の汚物が有り、清掃に手間がかかります。

然し私は子供達にも常に云うのです、プロ野球選手にしろ、相撲取りにしろ、ましてサラリーマンは職業である以上種々困難は付いて回るもので、易々とは収入は得られぬものである事

を十分体験しております。  
時々通行人に、御苦労様ですと挨拶を受け、発注主から時々あった不足を全然聞かないとセンターより仄聞する時、自分の健康も、会員として一層意を強くするものであります。

### 老後の生きがい



五班  
石橋 フミ子

高齢者にもできる何かいい仕事はないものかと、探し求めていた時、ある人が「シルバー人材センターへ行ってみなさい」と教えて下さり、そのひと言で、毎日をぼんやりと過していた私は、急に生き返った気持ちで、その時教えて頂いた道しるべを頼りに伺って、仕事の方もお願いして帰りました。  
あれから早や数年、ついこの間のようには思われ、なつかしい気持ちでいっぱいです。  
仕事の方は内職で、ショッピング用の紙袋の加工作業です。いつでしたでしょうか、役員の方が作業所に見えて

お話し下さった中で「お金の事は横の方に置いて……」と、ユーモアたっぷりおっしゃって、皆思わず吹き出してしまいました。なる程その通りだと思ふようになり、以来一生懸命頑張る毎日です。  
大きな袋を抱えて困っている人を見ては、飛んで行って手伝ってあげるような世話好きな賑やかな人、時には袋のデザインに横文字に、数人がかりで読めてヤレヤレ。どんなに急ぐ時でも「ちょっと待ってネ」と、のんびり待たせる我が道を行く型の人、誰ともなくまた始まったと、笑いとなって、腹を立てる人もありません。

協調しなければいけないことも自然に教えられ、心と心のふれあいこそが何よりも大切なことと思うようになりました。頭をフル回転しての毎日、老人性ボケという病の入る隙もない程の忙がしき、八十年代の方もいらっしゃいますが、余生を一層有意義にと頑張っています。毎日をこんなに生き甲斐を感じて働かせて頂けるところは、シルバー人材センター以外にはないと思います。

これも局長様始め、職員の皆様の温かいご配慮のお蔭と一同本当に嬉しく

有難く感謝しています。  
二十一世紀に向い、やがて老人大国になり、子供達もいつの日かまたお世話になることと思えます。  
益々充実し発展されることと確信いたします。

### 近況報告と健康



十一班  
深田 稔

仕事で配属されております。  
このマンションは山の斜面を利用し正面が車道に面し、三方が竹藪に囲まれた八階建てエレベーター（ケーブルカー式）を一基設備しており、他全部階段利用し各戸に行く様になっております。作業はその共用部分、大半が屋外階段で周囲の竹藪の落葉始末が大変で、雨でも降れば、地面にぐっついて仲々取れなくて苦労しております。又足下も滑りやすく不安定になります。  
最近では住人の方々も、私方は面識はないのですが、「お早よう」「ご苦労さん」等と声の交換があります。そんな時は、疲れを感じていても、なにかしら心が和みます。  
私も七十歳を過ぎましたので、階段の上下を一番心して気をつけて仕事をしております。  
毎日々と心明るく、  
管理人さん、住人の方々と人間関係がスムーズに気持ちよく過ごし、体調に気をつけていくことが、よりよい健康につながる事になると思えます。

豊中市シルバー人材センター会員になり、早や四年が経過致しました。当時現役時代の技術を生かし、少しでも社会に貢献する様に入会しましたが、仲々意のようにならず、工場内での組立作業、駐車場の管理等しましたが、その作業が少しきつかったり、また人間関係がうまくいかなかったりいろいろありました。  
現在はマンションの管理作業をしております。少し変わったマンションなので少々説明を致したいと思えます。  
昨年十二月後半から緑地公園駅より一〇分北側のマンションで清掃管理の



と



今日を生きる



一班  
市場 常 敬

私は、定年退職しまして今年で十年になり、七十歳を迎えました。年々人間の寿命が長くなって、高齢化が進んできたなかで、ただ生きながらえていられるだけでは寂しい限りです。老後を明るく朗らかに、健康で心豊かに過ごすためにも、すすんで社会参加に心がけて、人間交流を通して交際の範囲を広め、心のつきあいを深め、人間関係を高めるよう努めることが大切であります。

私は、おかげで健康にめぐまれ毎日仕事に出かけ、若い人達と交流し行動し、楽しい日々を送っております。又休みには山野に出かけ自然にふれ、足腰をきたえております。  
趣味として盆栽に精を出し、草木の生長に喜びと楽しみにひたっております。



そして夜の晩酌が何よりの楽しみで、生きがいを感じています。酒なくして人生なし、の心境です。老後は楽しく、健康には十分留意し、なるべく家族やまわりの人達に迷惑をかけないよう努力したいと思っております。

俳句



五班  
畑 中 但 雄

下校時のひと群れが過ぎ橋おぼろ  
万緑や彫像のむね宙へ反り  
大鯉の背ゆったりと沼薄暑  
片蔭がほし子供らにピラ配る  
梅雨寒や軒端の鳩のふくみ声  
毛虫這う風に追われるごとくなり

私の使命

今月のような好成績を!!

我輩は、  
地域班員であることを認識、しばしば 会員宅訪問  
就労をお願いし、場合によっては職種の転換を強調  
します。

|            |                       |            |            |                      |
|------------|-----------------------|------------|------------|----------------------|
| 7月の<br>場 合 | 私の受<br>持会<br>員<br>17名 | 就労者<br>15名 | 就労率<br>88% | 残り2名は<br>なんとかし<br>たい |
|------------|-----------------------|------------|------------|----------------------|



仕事に  
行ってまっかー

一中校区  
地域班員 西田 貞 義



十六班  
正 源 陶 子

(雑詠七十句抄)

(二)

春の屋雀ひそかに砂浴びる  
春夕鴉が畝をひよいと跳ぶ  
走る鈍明るき影を残しけり  
魔寺趾茶を摘む音の光りけり

少年の草矢を放ち放ち来る  
炎天をひた翔けりゆくもののが在り  
杉の実や庫裡鎖されし来迎寺  
鯛や雨意堪えたる宇陀郡  
紅葉の山いまは奈落に青い月  
仏殿の雪婆娑と落ち婆娑と落つ  
潜くことやむたそがれの鳩

常勤役員と職員を

ご紹介します

どうぞよろしくお願いします。

60〜70は青春時代

今日も元気だ ビールがうまい



専務理事

元田 一良

時を経て メロディー 新たな人生歌

声朗らかに 歌い継ぐ



事務局長

藤倉 運美

“これからはシルバー世代の時代です” “一緒にガンバリましょう”



事務局次長

寺本 政治

今が青春!! 皆さん……いろいろなことにトライしましょう!!



庶務主任

中井 敬士

健康に気をつけて これからも

シルバーをもりたてて下さい。



業務主任

田辺 光廣

初心を忘れずに

これからも頑張ります。



業務担当

岡野 誠

仕事をして 作ろう  
自分の健康



経理担当

志方 清彦

皆さん…… 元気で

仕事にがんばって下さい。



業務担当

伊藤 彰彦

人生を着実に 亀のごとく

歩いて行こうと思っています。



庶務担当

村井 幸子

若さで頑張ります。



業務担当

永田 隆一

一生懸命 がんばります。



業務担当

下村 進一

あとがき

今年から、機関紙「ふれあい」を年二回発行することになりました。

今回は、平成元年度通常総会の記事と、就業意識の転換について、会員の声を中心に編集しました。

「会員のひろば」に沢山寄稿をいただき喜んでいきます。随想、書画などご自由に投稿をお待ちしています。

仲間をもっと増やして、より活発なセンターにしたいものです。知人、友人などに、ぜひ一声かけてみていただきたいと、切に思います。

作業中の事故防止が何よりも大切。安全には十分ご注意ください。

今年の夏は猛暑型とか。くれぐれもご自愛のほどお祈りします。

